令和７年度使用教科用図書調査専門委員会　調査研究報告書　観点・着眼点（　種目名　音楽・器楽合奏　）

観　点		着　眼　点
1	学習指導要領との関連	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。
		音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。
		音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うための工夫・配慮の程度はどうか。
2	「コンパスぷらん（第４期名古屋市教育振興基本計画）」との関連	「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことができるような工夫・配慮の程度はどうか。
		「多様な人と学び合う」ための工夫・配慮の程度はどうか。
		「夢中で探究する」ための工夫・配慮の程度はどうか。
3 内容	（１）内容の選択	人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮の程度はどうか。
		音楽活動の基礎的な能力を身に付ける学習と発展的な学習や、弾力的な教育課程の設定についての工夫・配慮の程度はどうか。
	（２）内容の程度	音楽活動をするために、必要な知識及び技能の定着を図る学習活動と思考力・判断力・表現力等の育成を図る学習活動の内容の適切さはどうか。また、補充的な学習や発展的な学習の内容の適切さはどうか。
	（３）内容の構成	内容の系統的、発展的な構成の程度はどうか。また、教材の配列や分量及び領域間の関連の適切さはどうか。
4	タブレット端末の活用	タブレット端末を活用して学習の効果を高めるための工夫の程度はどうか。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	見出しや説明の文章等の表記・表現について工夫の程度はどうか。また、本文記述と楽譜・挿絵・イラスト・写真・図表等の関連の適切さはどうか。
6	印刷・造本等	「ユニバーサルデザイン化の観点から印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等」、「造本の堅ろうさや体裁」、「再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮」など印刷造本等の工夫の程度はどうか。

観点＼発行者		教育出版		教育芸術社	
		評価	特徴	評価	特徴
1	学習指導要領との関連		表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を着実に達成できるような教材や学習活動が充実している。「表現の仕方を調べてみよう」では、日本と西洋の管楽器と弦楽器ごとに、音楽的な見方・考え方を働かせながら共通点や相違点について比較しながら整理できるように工夫されている。また、各楽器の奏法について示した写真が分かりやすく、必要な知識や技能が身に付くよう工夫されている。	○	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を着実に達成できるような教材や学習活動が充実している。目次の次のページにある学習内容をまとめた「『中学生の器楽』の学習内容」のコーナーには、学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱とそれに対応する学習内容や教材が示されており、身に付けられる学力が一目で分かるようにまとめられている。また、豊富な写真や図によって必要な知識や技能が身に付くよう工夫されている。
		○	学習場面ごとの目標や活動が、各楽器の奏法の習得段階に応じて具体的に示されており、音楽表現を創意工夫したり、楽器の音色のよさや美しさを味わったりすることができるよう配慮されている。		学習場面ごとの目標や活動が具体的に示されており、音楽表現を創意工夫したり、楽器の音色のよさや美しさを味わったりすることができるよう配慮されている。
		○	アルトリコーダーだけでなく、和楽器においてもアンサンブルの曲が掲載され、多様な音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。		クラシックや伝統的な曲だけでなく、テレビ番組のテーマソングなど生徒にとって身近な曲がアンサンブルできるようになっており、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。
2	「コンパスぷらん（第４期名古屋市教育振興基本計画）」との関連		リコーダーの学習では、学習段階がきめ細かく設定されているとともに、学習段階ごとの目標や活動内容が具体的に示されており、生徒が主体的に必要な技能を身に付けることができるよう工夫されている。掲載されている教材も豊富なため、生徒がそれぞれ自分の実態に合わせて選択できるようになっている。また、「深めてみよう」では、発展的な内容が掲載されており、生徒が自分に合ったペースで学習を進めることができるよう配慮されている。	○	リコーダーの学習では、学習段階ごとの目標や活動内容が具体的に示されており、生徒が主体的に必要な技能を身に付けることができるよう工夫されている。また、すべての教材の伴奏が二次元コードによって再生でき、さらに再生速度も選択することができるため、自分に合ったペースでの学習がより行いやすくなっている。
			管楽器、弦楽器、打楽器のまとまりで多様な音楽文化の理解ができるような教材や、多様な楽器によるアンサンブル活動で他者と協働して表現する活動が多く掲載されている。また、巻頭には、我が国をはじめとする世界の多様な楽器や音楽文化が写真で紹介されており、生徒の興味・関心が喚起されるよう工夫されている。	○	「学びのコンパス」のコーナーでは、教科書の手順に沿って学習を進めることで、多様な人や考えに触れながら主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。また、専門家のメッセージやバンドスコアの掲載、和楽器と西洋楽器のコラボレーション、同世代の音楽活動の紹介の掲載など、生徒の多様な興味・関心を引き出したり自分の考えを広げたりすることができるよう配慮されている。
			「深めてみよう」では、身に付けた基本的な奏法や学習内容を基に、学習を深めることができる発展的な教材が掲載されている。また、鑑賞の学習との関連も図られており、生徒が学習状況や興味に応じて夢中で探究できるような配慮がされている。	○	「アンサンブルセミナー」では、学習目標の隣に生徒への問いかけを掲載することにより、生徒が課題意識をもち、主体的に学習に取り組むとともに、「見方・考え方」を働かせて夢中で探究し、深い学びができるように工夫されている。
3 内容	(1)内容の選択	○	箏の学習においては、演奏家のメッセージとして礼儀や人間性の大切さについて触れるなど、我が国の伝統文化で大切にしていることについて触れられている。「吹く楽器の仲間たち」や「弾く楽器の仲間たち」では、それぞれの民族楽器について調べ学習を行うことで、背景にある文化や伝統、多様性について理解することができるよう工夫されている。		箏の学習においては、「姿勢と礼儀」について触れるなど、我が国の伝統文化で大切にしていることについて触れられている。また、諸外国の音楽文化に対する理解を深められるよう、様々な国の楽器や多様なジャンルの教材、和楽器と西洋楽器のコラボレーションの掲載など、多様性が配慮された内容となっている。
		○	各見開き左上の冒頭に学習目標が、教材ごとに焦点化されためあてが記載されており、基礎的・基本的な奏法が確実に身に付けられるよう配慮されている。発展的な学習については、習得した基礎的な知識や技能を生かして表現する「まとめの曲」が適切に配置されている。また、「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」や「表現の仕方を調べてみよう」で、生徒の主体的・協働的な学習への取り組みが高められるよう配慮されており、各学校の実態に応じて柔軟に指導計画を立てることができるよう配慮されている。		楽器の奏法などについて、適切な分量の文章とイラスト、写真を用いて分かりやすく解説されていたり、随所にある「学びのコンパス」や「Ｑ＆Ａ」、コラムなどのコーナーにより、基礎的技能の習得や学習内容の確認ができたりするよう配慮されている。発展的な学習については、「バンドの世界をのぞいてみよう」「伝統の枠を超えて活躍する和楽器」などで、生徒の興味・関心に応じて学習を深めることができるよう適切に配慮されており、各学校の実態に応じて柔軟に指導計画を立てることができるよう配慮されている。
	(2)内容の程度		基礎的な奏法を定着させてから、段階的な技能の習得をねらい生徒の実態に応じた学習ができる。多くの教材が掲載され、生徒の実態に合わせて選択することができる。また、他者と協働して取り組むアンサンブルの教材が豊富に掲載されている。鑑賞の学習との関連教材である「六段の調べ」や「勧進帳」では、原曲からの抜粋部分の長さが短く、それぞれの曲の特徴やよさを味わうには至らない。	○	基礎的な奏法を定着させてから、段階的に技能の習得ができるよう効率よく学べる楽曲が掲載されている。楽曲の内容も、生徒の心情に合ったものが様々な習熟度に応じた編曲で取り上げられており、極めて適切なものとなっている。鑑賞の学習との関連教材である「六段の調べ」や「勧進帳」では、原曲からの抜粋部分や長さが適切で、それぞれの曲の特徴やよさを味わうことができるよう工夫されている。
	(3)内容の構成		各見開き左上の冒頭に学習目標、学習のゴールに「まとめの曲」を設定することにより、見開きごとに学習を見通せる構成となっている。「表現方法を調べてみよう」では、それぞれの楽器の共通点や相違点を探ることにより、学びを深めることができるよう工夫されている。リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の基本的な知識や奏法について、分かりやすく記載されている。豊富に掲載されているオリジナルの楽曲で、基本的な奏法を学べるほか、我が国で長く親しまれている曲や諸外国の様々な楽曲も多く配列されている。	○	各教材に、学習目標、活動文、音楽を形作っている要素をそれぞれ設定し、身に付ける学力を確実に育成できる紙面構成となっている。「学びのコンパス」では、教科書の手順に沿って学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の基本的な知識や奏法について、系統的に学ぶことができるよう工夫されている。幅広いジャンルから、生徒が親しみやすい曲や取り組みやすい曲が配列されている。和楽器では、鑑賞教材の一部が取り上げられており、鑑賞と関連づけて学習することで学びが深まるよう配慮されている。和楽器では、唱歌がしっかり取り扱われ、旋律のまとまりや演奏方法を理解できるよう工夫されている。
4	タブレット端末の活用		二次元コードを読み取ることにより、範奏動画を見て主体的に練習に取り組むことができる。撮影の角度が途中で変わるので、どのような音楽なのか分かっても、運指が分かりづらい。リコーダーやギター、太鼓など奏法の違いを細かく動画で説明し工夫されている。	○	随所に二次元コードが掲載されている。アルトリコーダーでは、二次元コードを読み取ると、すべての曲が伴奏MIDIとつながり、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。基本的な構え方や奏法も二次元コードを読み取ることにより、動画で説明されていて大変分かりやすい。MIDIデータも動画も再生速度を変えることができ、生徒一人一人の学習状況に合わせて選択できるよう工夫されている。創作では、音のカードをスライドするだけで楽譜に貼り付けることができ、また、作った旋律をすぐ再生することができて、生徒の主体的な学びができるよう工夫されている。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	○	見出しや文字囲いが楽器ごとに色分けされ、見やすい配慮がされている。また、楽器や奏法の写真が効果的に使われ、楽器に関する情報が非常に分かりやすく、かつ、奏法も理解しやすいものとなっている。アルトリコーダーの運指は、音高に従って配列されているとよい。		重要な項目から順に目に入るよう文字の形状や濃度を変える工夫がされている。楽譜の近くにある情報の位置やデザインが工夫されており、楽譜を見やすくしている。巻末「音楽の約束」のページに、学習した音符・休符・記号・用語が簡潔にまとめられている。
6	印刷・造本等	○	判読性・視認性の高い配色とカラーユニバーサルデザインやＵＤフォントが使用され、より多くの生徒が見やすいよう配慮されている。造本は、開きのよい無線綴じである。		ＵＤフォントが使用され、全ページにわたり4色刷りで印刷の発色がよい。造本は、耐久性に優れたあじろ綴じである。

※　着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和７年度使用教科用図書　調査専門委員会　調査研究報告書「各教科固有の追加調査事項」（種目名　音楽・器楽合奏）

発行者 事項	教育出版		教育芸術社	
	評価	特徴	評価	特徴
和楽器が適切に取り扱われているか		篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓を扱っており、箏や三味線では、五線譜と併せて縦譜や文化譜を掲載し、読譜の実態に対応したり、奏法を素早く読み取ったりできるよう工夫されている。和楽器を扱う教材には、口唱歌が表記されている。和楽器の様々な奏法を用いた多様なアンサンブル活動及び創作活動が、アニメソングなど生徒にとって親しみやすい教材とともに掲載されている。リコーダーと篠笛と尺八の表現の仕方を調べる学習やギターと箏と三味線の表現方法を調べる学習があり、それぞれの楽器の特徴を学ぶだけでなく、共通点や相違点についても考えを深める工夫がされている。	○	篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓を扱っており、箏や三味線では、五線譜と併せて縦譜や文化譜を掲載し、読譜の実態に対応したり、奏法を素早く読み取ったりできるよう工夫されている。和楽器を扱う教材には、口唱歌が表記され、唱歌の意味や意義についても記載されており、我が国の伝統的な音楽を学ぶ際に大切にされていることが伝わるよう工夫されている。また、各楽器ごとに、演奏のポイントが記載されており、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。巻末に各楽器のオプション教材が掲載されている。箏曲「六段の調べ」や長唄「勧進帳」（歌舞伎「勧進帳」）は、鑑賞教材の学習を深めることができる内容になっている。
各楽器の基礎的な奏法が分かりやすく示されているか	○	奏法を説明するための写真が、一つ一つアップで撮影されているので、構え方や調弦の方法、音の出し方のポイントなど、各楽器の特性に応じ、具体的でとても分かりやすいものとなっている。リコーダーのサミングやアーティキュレーションでは、それぞれの奏法や違いを二次元コードを読み取って聴取できるようになっており、生徒にとって理解しやすくなるようよく配慮されている。また、三味線の撥の持ち方では、身近にある鉛筆を用いての練習方法が掲載されており、生徒が主体的に学べるよう工夫されている。各楽器ごとに、発展的な奏法にも触れていて、それぞれの楽器の演奏技能を深めることができるよう工夫されている。		写真を効果的に用いて楽器の構造や各部の名称が解説されており、各楽器の特性に応じた奏法が、具体的に分かりやすく説明されている。リコーダーの姿勢や構え方、タンギングの仕方について二次元コードを読み取ることによって動画でも理解できるようになっている。リコーダーの運指がページの左端に音高順に表記されており、生徒が音高と運指を関連づけながら学習に取り組めるよう工夫されている。
音楽の要素を知覚し、表現に生かしやすい工夫が図られているか		それぞれの教材の題名の下に、その教材で扱う音楽の要素と関連づけた学習目標が明記されており、音楽の要素を知覚し、表現に生かす際のポイントが分かりやすいものとなるよう工夫されている。	○	「アンサンブルセミナー」のページや創作の学習目標の下に音楽の要素が示されていたり、吹き出しで「考えたいポイント」が示されていたりしており、学習する音楽の要素を知覚し、主体的に表現に生かすことができるよう工夫されている。目次の次のページにある学習内容をまとめた「『中学生の器楽』の学習内容」のコーナーには、各学習で扱う音楽の要素が明示されており、学習目標との関連が図られている。

※　事項ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。